

# 御五神島・無人島体験事業

## ～出会い、発見、ゆめ体験 in 御五神！～

### 1 事業のねらい

子どもたちが、無人島という制約された環境の中で、自ら創意工夫し、協力し合いながら自然体験活動・生活体験活動に取り組むことにより、自立心や協調性などの社会性を育むとともに、困難なことに直面しても克服できる柔軟で強い精神力を養う。

### 2 事業の概要

(1) 対象 小学5年生～中学3年生（42名）

(2) 参加費 25,000円

(3) 日程

月日（曜日）	活動内容	場所
7月26日（日）	開会式、オリエンテーション、アイスブレイク、テント設営等実習、班別活動計画作成	大洲青少年交流の家
27日（月）	竹食器製作、生活資材仕分け、荷造り	大洲青少年交流の家 下灘公民館
28日（火）	御五神島入島、開村式、テント設営	御五神島（無人島）
29日（水）	生活用品作り（食器だな、洗濯干場等）、海水浴	御五神島（無人島）
30日（木）	食事作り、シュノーケリング、釣り、星空観察	御五神島（無人島）
31日（金）	食事作り、シュノーケリング、釣り	御五神島（無人島）
8月1日（土）	自給自足的生活体験、テントサイトコンテスト	御五神島（無人島）
2日（日）	資材整理、スタンプ練習、キャンプファイアー	御五神島（無人島）
3日（月）	撤収作業、離島、資材整理	御五神島（無人島） 大洲青少年交流の家
4日（火）	感想文作成、閉会式、記念撮影	大洲青少年交流の家

(4) 参加状況

上記の事業概要にて、県内すべての小中学校に募集案内を配布し、5月末から1か月間参加者を募集したところ、17市町から男子94名、女子39名、合計133名の応募があり、抽選により男子30名、女子12名が平成27年度「御五神島・無人島体験事業」に参加することとなった。

(5) 実施にあたって

ア 島内に生息するイノシシに対しては、電気防護ネットの設置や不寝番の配置、イノシシへの正しい対応法の指導、食材や残飯の適切な管理等により参加者の安全確保に努めた。

イ 子どもたちへの指導に加え、イノシシ不寝番の配置等、安全管理体制をより充実させるために、小中学校の教員15名が指導者として参加した。

ウ 愛媛大学教育学部の「地域連携実習」により、6名の教職志望の学生が参加し、サブリーダーとして子どもたちの指導にあたった。

エ 県立南宇和病院の看護師1名に常駐してもらい、ケガや熱中症等に対応してもらった。

### 3 活動の記録

#### ○ 7月26日（国立大洲青少年交流の家での活動）

開会式後、グループに分かれて自己紹介や指導者によるアイスブレイクを行った。その後、武道場においてロープワークやテント設営実習を行った。夜には、各班で班旗を作った。



（開会式：代表挨拶）



（テント設営実習）



（夜の班活動）

#### ○ 7月27日（国立大洲青少年交流の家での活動）

午前中は、御五神島で使用する竹食器の製作やタープ設営実習を行った。午後からは、各班が使用する資材を確認し、コンテナに梱包した。夕食・入浴後、宇和島市の下灘公民館へ移動した。



（竹食器作り）



（タープ設営実習）



（下灘公民館で就寝）

#### ○ 7月28日（御五神島へ入島、無人島体験の開始）

3隻の船にたくさんの資材や食材を乗せ、嵐港を出港した。御五神島に到着後、全員で荷物を運び、開村式を行った。そして、タープ・テントを設営し、この日の夕食から自分たちで作り始めた。



（開村式：村長さんのお話）



（タープ設営）



（初めての食事）

#### ○ 7月29日～8月2日（御五神島での生活）

テントサイトコンテストや自給自足の日、キャンプファイア一等を行った。今年は、事業期間中一滴の雨も降らず、本当に天候に恵まれた年であった。



（食事作りの様子）



（シュノーケリング）



（冷たい井戸水）





(火起こし)



(テントサイトコンテスト：食器棚)



(賞品のマッチをもらう)



(自給自足の日：釣り)



(魚をさばく)



(野草の専門家：早見先生)



(初めてのSUP)



(最後の食事)



(キャンプファイアー)

○ 8月3日 (御五神島を離島し、国立大洲青少年交流の家へ)

早朝より撤収し、閉村式を行い、御五神島を離れた。途中、大洲臥龍の湯に寄り、一週間の汚れを落とした。午後からは大洲青少年交流の家にもどり、テントやシート、道具類の片付けを行った。



(バケツリレーで荷物運び)



(閉村式)



(テントの片付け)

○ 8月4日 (最終日、大洲青少年交流の家で事業の振り返り)

事業について振り返り、感想文をまとめた。そして、最後の閉会式を行った。修了証と記念メダルを参加者全員に渡し、班長やリーダーが感想を発表した。その後、記念撮影をして解散した。



(感想文作成)



(閉会式：班長の感想発表)

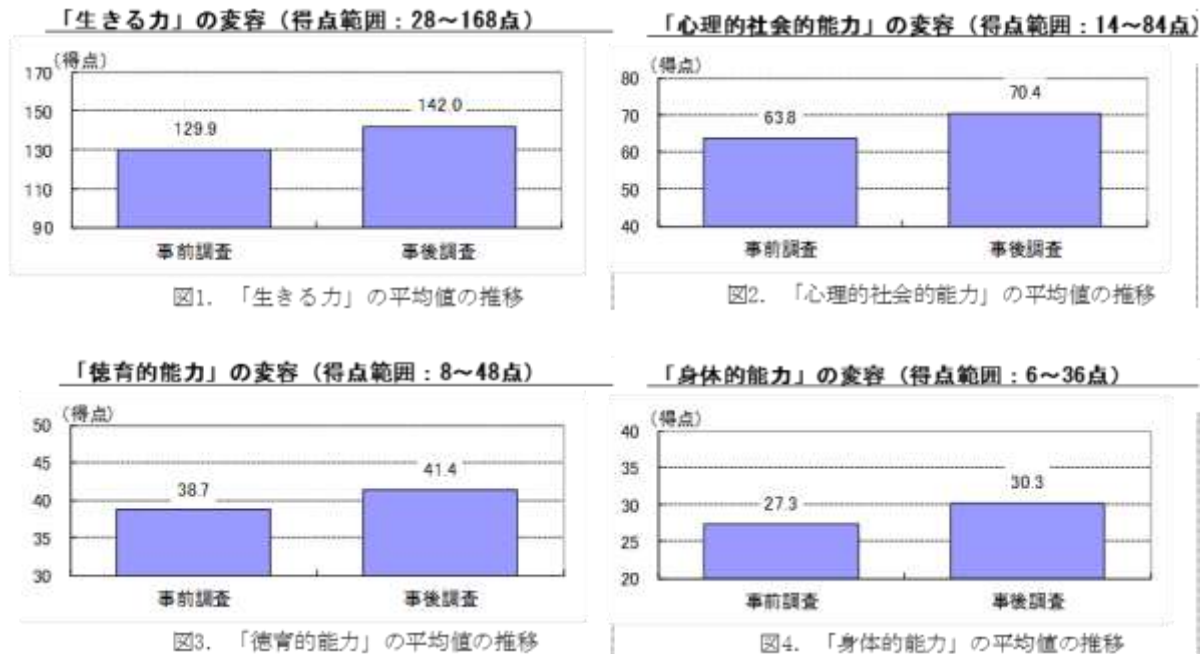


(記念撮影)

#### 4 「生きる力」の変容

本事業が、参加者の「生きる力」の変容に及ぼす効果を明らかにするために、国立青少年教育振興機構より提供された『「生きる力」の測定・分析ツール』を使用し、調査を実施した。調査は、事業初日7月26日の開会式後（事前）と最終日8月4日の感想文作成の前（事後）の2回行った。

##### ★ 分析結果



事前と事後では、「生きる力」が12.1ポイント向上し、島での3不の生活（不自由・不便・不足）は、参加者の「生きる力」の変容に影響を与えたと言えるであろう。

今回で5回目の調査となったが、いずれも「生きる力」について10ポイント以上向上している。今後とも調査を継続し、本事業が参加者の「生きる力」に与える影響を検証していきたい。

#### 5 成果と課題

事業最終日に参加者の書いた感想文を読むと、「仲間や協力することの大切さ」「便利な日常生活への感謝」「生活を支えてくれる家族への感謝」「自分自身の成長・自信」等が綴られており、本事業は子どもたちに対して普段はなかなか意識することのない様々な気づきを提供することができた。保護者の感想文にも、「お手伝いをしてくれる」「感謝の気持ちをもつことができる」「思いをきちんと伝えることができる」等、子どもたちの成長が綴られていた。参加した教員や愛媛大学教育学部の学生の感想文にも、「活動を促す待つ姿勢」「子どもたちの成長」「子どもとの触れ合いの中での感動体験」等が綴られており、野外生活体験を通したよりよい研修の機会になったと考えている。

無人島という過酷な環境のため、衛生面での課題が残った。海に入った後、井戸水で体を流すのが不十分だったため「体がかゆい」と訴える子どもや、虫に刺されて手足に赤い湿疹ができた子どもがいた。また、コンタクトレンズの洗浄が不十分で不衛生だったため、角膜の細菌感染を起こした指導者もいた。

今後とも、愛媛の子どもたちに豊かな体験活動を提供できるよう、熱中症や事故・ケガの防止、イノシシ対策等の安全・衛生管理の徹底、水や食材、キャンプ資材の見直し等を行い、安全な事業の実施を図るとともに、指導者やボランティアの継続的な確保に努めたい。